

基本条例の推進に係る 意見等について

平成29年3月21日(火)

1. 市民の方に条例をより周知していくにはどうしたらいいのでしょうか？

- ①集会や研修会などを実施し、条例の意義や必要性に対する理解を広めることが大切でないでしょうか。
- ②単位町内会ごとに勉強会を開いて周知していくことしかないのでは。
- ③町内会、婦人団体、ボランティア団体等の会合時に、説明時間を設けていただき啓蒙する。
- ④大人に対する周知も必要であるが、小学校、中学校の協力を得て「総合的な学習の時間」等で（高校は授業がどうか）次世代を担う児童生徒に周知を図り、市民全体で取り組むことを説明し広がりを求めることも必要では？

- ①広報などに載っているのは見たことありますが、「これっと」などのフリーペーパーなどでも、もっとサラッと目につくようにしたら良いかもしれません。ドカ雪まつりなど市民がそれなりに集まる場所での周知活動、ブースなどやったらどうでしょうか。
- ②大きなプロジェクトだけではなく、大小様々な具体例を多く提示し、小さなことでも「まちづくり」だという認識を広める。
- ③まちづくりの効果とともにメリットを視覚化して公表する。
- ④市民が多く集まるイベントなどで積極的にパンフレットを配布する。
- ⑤現在は、条例の情報をそのまま市民に提供しているようなイメージだが、そうではなく、逆の発想、市民目線で考え、わかりやすく伝えるマーケティングの視点が必要だと思います。たとえば、
 - ・市民が現在抱えている悩みもしくは実際に市に寄せられた意見や苦情の例を出す→
 - ・それを解決する為にはこれくらいのお金（予算）が必要です→
 - ・人口減により従来通りの行政サービスができない時代です→
 - ・市民の皆さんの協力によって行政コストが下げることができます→「その為に条例をつくりました」というように、市民でもわかるように、そして是非協力したいと思ってもらえるような伝え方をし、更に、漫画やイラストでわかりやすくし、市のFacebook や広報誌に載せると良いと思います。

- ①「条例」という名前自体が堅苦しく思っているのかも。
- ②「まちづくり基本条例」の名称が硬いので、親しみやすくわかりやすい愛称をつける。

2. より多くの市民がまちづくりに参加・協働するには何が必要でしょうか？

- ①健康づくり運動（体力づくり含め）、花いっぱい運動など個々の参加が結果的にまちづくりの参加・協働につながるアピールも必要。
- ②広報いわみざわの「みんなのひろば」「情報ひろば」などを利用して、多くのことに参加するのではなく、何か一つだけに絞って参加すると参加しやすいのではないのでしょうか。
- ③団体でなくとも、1人でも可能な「なんちゃってまちづくり」のケースを提示し、実践してもらおう。同様に家に居てもできる取り組み（まちづくりにつながる活動）があれば提示する。あまり外で活動できない高齢者や引きこもりニートもまちづくりに参加させる。
- ④「まちづくりへの参加」が数値化されるのであれば、ポイント制で何かに反映させることはできないだろうか。
- ⑤「協働」のハードルが高いのではと考える。

- ①学生さんたちだけで（高校生か大学生）のまちづくり部隊みたいなものを作る。若い世代の発信力。まちづくりについての対談みたいなものを広報に載せるなど。
- ②市民の人がまちづくりに関心を持ってもらえるように意見交換ができる機会があればよいと思う。
- ③私自身、まちづくりに積極的に参加していますが、その原点は、小学校～高校時代に参加した子ども会活動でした。
生涯学習文化スポーツ振興課主体の事業（サークル活動やボランティア、スポーツイベント等）や日常の楽しいコミュニティで、リーダーや当日の受付等、市民に小さな役割を任せることにより、小さくても責任感や協働の意識が沸き、その繰り返しで「まちに貢献している」感が沸くのではないかと思います。

- ①市民が積極的にまちづくりに参加するということが、個々の喜びに繋がるようになれば参加するようになると思います。
- ②「まちづくり」自体にとっつきにくい、面倒くさい、硬いイメージがあるので、面白く、楽しく、カッコいい、イケてる側面を作り出せるとよいのではと思うが、良い案がでない。
- ③市だけではなく町内会でも同じ問題が起こっています。何が必要なのでしょう？
- ④具体的な考えはありませんが、行政的な考え方（取り組み方）でない斬新な考えで取り組む必要があると思います。

3. 議会の取り組みについてはどう思いますか？

また、より進めていくにはどのようなことが必要でしょうか？

- ①近年、議会地区別報告会へ取り組むなど前進が見られますが、議会条例を定めるなどの一層の資質の向上を目指す努力がほしい。
- ②市民の意思を政策に反映する。
- ③開かれた議会運営に努める。
- ④市議会だよりをより充実させては。
- ⑤役割は今のままでよいが具体的な取り組みについてその役割をどう遂行したかを知りたい。
- ⑥議会でイメージされている（議員さんたちが考えている？）まちづくりとは何かそれぞれ聞いてみたい。
- ⑧推進委員会に入る前の私の様に、市議会だより等をもらってもスルーして読んでいる方は少ないと思われます。が、やはり地道に知らせる事と思います。出来れば市議会の傍聴をもっと市民に勧めてはと思います。
- ⑦議員の方も一所懸命考えて条例に取り組んでいると思います。
- ⑧具体的に分かりやすく、市民に議会の取り組みが分かるようにホームページなどを利用して伝えていくと良いと思う。
- ⑨市議会ではどのようなことが検討されているか全く見えていない。
- ⑩柔軟な考えを持つ若手議員に対する働きかけが必要では？
- ⑪市民の一人として、議会にあまり関心が沸かないのが本音ですが、議員個人が Facebook で議会の内容を発信していたり、Ustream で配信することにより、日常的に情報が目に入ってくるような取り組みは素晴らしいと思います。

4. 行政の取り組みについてはどう思いますか？

また、より進めていくにはどのようなことが必要でしょうか？

- ①公正な市政運営の点では慎重さが伺え、課題山積の中で極めて努力されていて心強い。
- ②行政の取り組みは、私はとても良くやってくれていると思っています。私たち市民に対しての情報の提供も非常に良いと思っています。
- ③ここ1年ぐらいで岩見沢のホームページがキレイに若者っぽくなったり、フリーペーパーなどが見やすくなったり、ちょっとした街の変化が見られた気がします。個人的意見ですが、ネット社会なので岩見沢のインスタグラムがあってもいいなと感じました。今は行きたい街、場所を#（ハッシュタグ）という機能を使って調べる人が多いので目に付きやすいかと思います。「ヘーこんなところがあるんだ」「行ってみたい」と思わせるきっかけ作りにもなります。
- ④市民が一丸となる、や、行政と市民が一体となって頑張る、というのはかなり難しいと考える。無理に「活動」するのではなく、日常に自然と行えるまちづくりを「まちづくり」と認定して、うまく広めてほしい。
- ⑤「まちづくり」の具体的な目標を小さくてもよいので作り、協力を得るようにする。あれもこれも「まちづくり」ということが判れば、少しずつ実践してもらえるのではないだろうか。まちづくりに参加したくても何がまちづくりなのかわからない方々もいると考える。
- ⑥市職員の方も（より良いまちづくりに対して）条例に基づいて一所懸命仕事をしていると思います。
- ⑦SNS（Facebook や Twitter）などを利用して市民の意見が直接届くようになるのはどうでしょうか。
- ⑧市職員の若手が、シティプロモーションという活動をし、岩見沢らしさの情報発信をしているが、プロ市民（まちづくりに積極的な市民）しか関心を示していないように感じます。せっかく市職員の若い世代がそろっているのだから、20代～30代目線で便利な市の制度（ex ゴミチェッカー、格安で受けられる定期検診）や、20代～30代でも仕事終わりや休日に楽しめる芸術、スポーツ、文化活動（まなみーるでのLIVE、トレセン、であえーるでのボルダリング）というような同世代の市民に向けた「実際に参加・体験してみたメリットデメリット」という体験レポのような記事をFacebook等で提供した方が、市民の関心は高まると思います。

5. その他、条例の推進について全般的に何かありましたらご記入ください。

- ①推進委員会の先進地視察や、自らの勉強会の実施などを根気強く取り組むことが必要だと思います。
- ②この委員会には色々な年代の方がいらっしゃるので、その方々の周りの人がどんな意見をもっているのか、事前に個人で軽いアンケートを取ってもらい、委員会に持ち込むなどしてもよいかと思います。子育て世代とその上の世代だと、まちづくりに対する意見が違うと思いますので、そんな世代の意見が交差してもいいのかと思います。
- ③現時点で、「まちづくりとは何か」等々の市民アンケートをとってみたい。
- ④ウェブサイトが見にくい。